

第129回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2021年1月11日 (月) 郵送句会

兼題「雪だるま」「薄氷 (うすらい)」

- 川井素山 ○隠沼の薄氷はなつ反射光
焼諸売りふた廻り目の声高し
幕間の匂袋や初芝居
夕照の庭に確かな冬木の芽
- 保井寶正 ○けふの顔やや不機嫌な雪だるま
天気図の音符の如き雪達磨
薄氷の水草揺らぐ瀬音かな
年毎に小振りになるや鏡餅
- 佐久間喬 ○月あかり雪に埋もれし雪だるま
薄氷の如重ねたる千枚漬
元旦や今年も同じ墓参り
抜け道や昔ながらの松飾
- 丸山酔宵子 ○薄氷や使用禁止の手水鉢
雪達磨ドン・キホーテに変わり果て
ちろり酒コップに注ぐ者同士
日に向ひのんびりかたまる福寿草
- 吉田啓悟 ○薄氷や寄り道は光にもあり
青春の彼方より届く賀状あり
小雀のまばたき一つ春を待つ
日脚伸ぶ今日は青梅へ行ってみる
- 青木英林 ○渋滞を横で眺める雪だるま
薄氷を日めくりの如剥がしたり
古民家に子等の喚声独楽競ふ
爺ちゃんの怒った顔の雪だるま
- 山本草風 ○聴診器不安聴きとる師走かな
心字池悩みの如くうすごほり
白菜の切られる音の潔さ
酒運ぶ妻の背中に淑気みる

渡辺鯨波 ○イケメンの雪だるまから溶けてゆく
叱られて手荒く作る雪だるま
濃餅汁路面電車の走る音
短日や本に葉を挿し忘れ

後藤克彦 ○断捨離の空き箱残る年の暮
過ごし方変はり変はりて年迎ふ
薄氷に映りし顔やアマビエ似
破魔矢持ち三密避けて初詣

原 晶如 ○太き眉もらひ肥満の雪だるま
懐手何も買はぬとウィンドウ
まさぐれる爪のささくれ花八手
薄氷に水音透けし流れから

永井正孝 ○薄氷の鉢に浮かびてキラキラと
雪達磨炭団の目何処にぞ
ゆず湯して部屋にみちをる香味酸味
賑はひに揉まれ漂ふ熊手かな

佐久間たか子 ○一瞬の^{てっさ}河豚刺の皿を箸が行く

雪の朝^{つがい}番雀が宿るかな

月冴えて話し掛けたや雪仏
着脹れて朝陽に笑ふ雪達磨

青葉ひかる ○シンシンと雪だるまさん頭だけ
朱に映えて黒きシルエット冬の富士
オリオンを探して廻り凍える手
黄色菊南天の実松揃え

次回「萩句会」

日時 2021年2月8日（月）郵送句会

兼題『朧月』または『盆梅』一句

当季雑詠 三句

投句の締め切りは2月5日（金）です。